

<小学生・中学生・高校生の意見発表>

蒲郡市民憲章3つのちかいの実践を通して

蒲郡西部小学校 6年 横山 朋花

朋花さんは、いつも明るく、友だちに元気を与えてくれます。チャイム前着席の呼びかけをするなど、責任感もあります。前期児童会役員として、友だちの手本となる行動が目立ちました。

私は、今年の入学式の時に、児童会を代表して、全校の前で市民憲章を先唱させていただきました。このとき、何度も言う練習をしていて、市民憲章の3つの誓いには、どんな意味があって、どんな思いが込められているのか興味をもちました。今回は、3つの誓いの中から、「はい。ありがとう。すみません。愛の言葉で人づくり」について考えてみました。

「はい。ありがとう。すみません。」は、日頃からよく使われている言葉です。当たり前に使われているこの3つの言葉にどんな思いが込められているのでしょうか。

まず、「はい」に込められた思いは、素直にきく心だと思いました。私は、最近、お母さんや先生に何か言われると、「はい」という言葉より「でも」「だって」など言い訳をするような言葉ばかりで「はい」と言うことができていることに気付きました。当り前の言葉だと思っていてもなかなか使えないんだなと思いました。同じように市民憲章でも素直な心を忘れないようにという願いが込められているんだなと思いました。

次に、「ありがとう。」です。これも、当り前に使われているはずの言葉です。人に助けてもらうなどしたら言うのはもちろんだと思いますが、大きな視点で考えると、この

蒲郡というすばらしい街に生まれたこと、生きているということやご飯を食べることができているということ。いつも当たり前のように思っていることは、その大切さをつい忘れてしまったり、ありがたみを感じなくなってしまったりしてしまいます。「ありがとう」という言葉には、その大切さやありがたみを常に心がけていってほしいという思いが込められているように感じます。

最後に、「すみません。」です。悪いこと、まちがったことをしたときに、素直にあやまることができるように誓いに入っているのだと思います。

今回、市民憲章について考えてみて感じたことがあります。心で思っけていても言葉にするのは、むずかしいことだということです。

私は、友達のえんぴつをひろってあげると「ありがとう。」

などのことばがかえってくるのですごくうれしくて、スッキリした気持ちになります。これからもよい行動を続けていきたいです。だからこそ、当り前のこの3つの言葉を忘れないで素直に言えるように、これからも生



活していきたいです。また、今後市民憲章はことあるごとに何度も読み上げると思いません。そのたびに、今回考えたことを思い出

ながらいえるようにしたいです。

これからも、蒲郡市民としてのほこりを持ちこの市民憲章を大切にしたいです。

市民憲章の実践を通して

三谷小学校 6年 吉 武 翔 斗

翔斗くんは、何事にも真剣に取り組み、周りに流されず常に自分の正しいことを伝えるしっかり者です。ソフト部のキャプテンとして、チームを叱咤激励し、日々の練習や球技指導会を盛り上げてくれました。

僕は、毎日の生活の中で、いつも心がけていることがあります。それは、市民憲章の中にもあります。まず1つ目の「はい、ありがとう、すみません、愛の言葉で人づくり」という言葉があります。ぼくは、あいさつも人づくりには欠かせないことだと思っています。また、毎日の生活の基本もあいさつだと思っています。

ぼくは、ほとんど毎日、家で野球の練習をしています。ぼくの家となりの道は、よく人が通ります。ほぼ毎日通る人もいれば、たまに通る人もいます。でも、そのことに関わらず、人が通れば、あいさつをするように心がけています。

ある日、通りかかったおばあさんに「こんにちは。」とあいさつをしたら、

「こんにちは。毎日えらいね。がんばってね。」

と、言ってくれました。このおばあさん、応援してくれてるんだと思うと、よし、がんばるぞとやる気が出てきました。

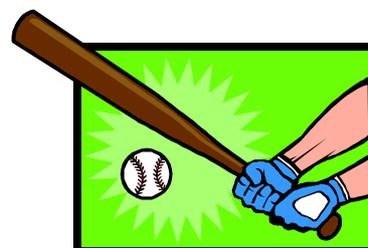
ところが、あいさつをしても返してくれない人もいました。とても悲しい気持ちになりました。この人、なんで返してくれないんだろう。ぼくの言い方が悪かったのかなあと思

いました。もしかしたら、そのとき、嫌なことがあって、暗い気持ちだったかもしれません。

この経験を通して、どんなときでもあいさつ

をされたら、絶対に返すことを心に決めました。あいさつをすれば、言った方も言われた方も良い気分になります。でも、あいさつを自分からしなかったり、あいさつをしても返してくれなかったりしたら、すごく嫌な気持ちになります。自分の気持ちが暗い時こそ、自分からあいさつをして、いい気持ちになれるように、これからもあいさつを積極的に行っていきたいです。

次は、市民憲章3つ目の「海と空を美しく、みんなの力で町づくり」についてです。ある日、スポーツ少年団で海岸清掃の活動がありました。海岸には、とてもたくさんのゴミが落ちていました。始めはこんなにゴミを拾うなんて大変そうだったけれど、ゴミを拾っていくうちに、だんだんきれいになっていく海岸を見て、一層やる気が出てきました。あるていどゴミが集まってきたとき、おじい



さんが重たそうなゴミ袋をかついでいました。

「だいじょうぶですか。ゴミ袋持って行きましょうか。」

と、声をかけました。すると、おじいさんが、

「君、優しいねえ。お願いするよ。」

と言ったので、持っていきました。運び終わった後に、おじいさんが、

「ありがとね。おかげで海岸がきれいになったよ。本当にありがとう。」

と、お礼を言われました。海岸清掃自体は、とても疲れたけれど、この言葉を聞いて、疲れがどこかへ消えていきました。

これからも蒲郡市民として、協力し合いながら市民憲章を実践していきたいです。

今までとこれからのわたし

大塚中学校 3年 三浦 哉子

三浦さんは、誠実な人柄で、みんなからの信頼がとても厚いです。生徒議会の議長や体育大会応援旗作りの団長を務め、全校のみんなをリードしました。また、素敵なお笑顔の持ち主で、まわりのみんなの心をいつも和ませてくれています。

みなさんは、学校生活を一生懸命送っていますか。積極的に行動していますか。

今、私は、合唱コンクールに向けてクラスのみんなどががんばっています。しかし、以前の私は違いました。積極的に取り組むとか、みんなのために前に出てひっぱりこようとするのは、ありませんでした。

でも、そんな私を変えてくれたきっかけがありました。

二年生の教育相談のときでした。

「生徒会やってみたら。」

担任の先生からの何気ない一言でした。私は、生徒会とは無縁だと思っていましたが、思い切って挑戦しました。

初めての仕事は文化祭。オープニングで踊るダンスや劇。先輩方や後輩たちと一緒に猛練習しました。今まで何気なく見ていたオープニングは、こんなにもの時間をかけ、練習をしていたものだったんだ、先輩たちの思いがこれほどつまっているものなんだ、と気づかされました。みんなで協力するすばらしさ、

人と人がつながって生まれるエネルギーの大きさを強く感じました。そして、自分が率先しているんなことに関わっていきたく思うようになりました。

もう1つのきっかけとなることがありました。それは、部活動です。私は、卓球部に入っていましたが、正直早く終わらないかなあと思う日々でした。いくら練習をがんばっても試合では負けてばかり。試合をやっている途中で「もういいや」と思い、サーブを適当に出すこともありました。

しかし、私は、3年生になって、どんどん前向きに取り組む、声を出すキャプテンを間近で感じ、自分も試合で思い切り声を出すというのをやってみました。すると、どうでしょう。途中であきらめてしまうくせが、私からなくなっていきました。それに、練習中も「次はあのコースへ」「この回転で」と考えてプレーするようになっていました。

夏の最後の大会は、残念ながら勝てませんでした。しかし、3年生からの数か月を本気で仲間とプレーすることができ、とても達成感がありました。結果が出なくても、全力で取り組むということは何物にもかえられない自分の中の宝物が増えるということを実感しました。

今の私、これからの私は、どんなことも後悔しないように、全力で、積極的に取り組み

ます。思い返したとき、自分自身に100点を付けられるようにすることがこれからの目標です。

そして、私には、夢があります。看護師になりたいと思っています。小さいとき優しくしてもらった看護師さんのように、素敵な笑顔の持ち主になれますように。今は、その夢に少しでも近づけるように日々を全力で取り組み自分自身を磨いていきます。

相手にとって

西浦中学校 3年 壁谷美波

壁谷さんは、生徒会副会長として、全生徒から信頼されています。生徒会主催の行事では、司会や進行役を務め、上手に会を進めることができます。部活動では、バスケット部のキャプテンとして活躍しました。スリーポイントシュートの名手として、東三河大会準優勝に大いに貢献しました。

「何してるの、あの人。」

ある日、家族で買い物をしていたら、弟が誰かを指さしました。さした方向には、車いすに乗っている男性がいました。その男性は、商品棚をじっと見つめていました。上にある商品を取りたがっているように見えました。私は、一瞬迷いました。声をかけてみようかと。しかし、結局私は何事もなかったように、親のあとを追いました。そのとき私が選んだのは、「見て見ぬふりをする」という行動でした。相手は知らない人だし、迷惑になると考えたからです。しかし、家に帰ってからそのことばかりが頭に残りました。本当に見て見ぬふりでよかったんだろうか。相手にとって、一番何がしてほしかったんだろうか。自分のした行動に疑問を抱きました。

中学1年生のとき、総合的な学習で福祉の勉強をしました。そのときの学習の1つに、実際に障がい者の方の話を書く機会があり

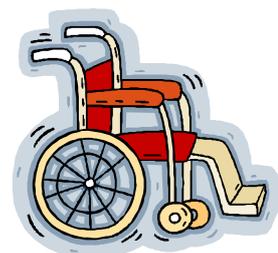
ました。私たちは、車いすで生活をされている方の話を聞きました。生活上で困ること、してもらってうれしかったことなどを聞かせていただきました。その方は、

「お手伝いをしてくれるのはうれしいんだよ」と、おっしゃっていました。私も、自分のできないことを手伝ってくれるのはうれしいので、同じなんだと思いました。

しかし、これとは全く反対の言葉にも出会いました。

「特別あつかいをしてほしくない。」

この言葉は、先天性四肢欠損症という病気をもって生まれた方の本でした。この方は、障がいが重く、両腕と両足がほとんどありませんでした。そのような体で生活をしていく中で、「特別あつかいをしてほしくな



い」という考えが生まれ、「みんなと同じようにやれることはやりたい」と思うようになったと、筆者は言っていました。

もし、みなさんが私と同じ場面に出会ったら、どちらの行動をとりますか。声をかけて手助けしますか。それとも私がしてしまったように、見て見ぬふりをしますか。手伝ってくれてうれしいという思いと、特別あつかいされたくないという思い。どちらの思いにも、納得できる気がします。この2つの気持ちは、矛盾しているようですが、視点を変えてみれば、同じことなんだと思います。健常者の私たちも、できることは自分でやり、一人ではできないことは、誰かに手伝ってもらっています。「障がいのある人だから手伝う」のではなく、「困っているから手伝う」のだと思います。大切なことは、相手の人の様子や気持ちを優先して、判断することなのではないでしょうか。

私が次に同じような場面に出会ったら、「大丈夫ですか、手伝いましょうか。」と、自信をもって声をかけたいと思います。

自己紹介

形原中学校 3年 石川 楓

石川さんは、どんなことにも誠実に取り組むことができます。陸上部の短距離走選手として熱心に練習を積み重ね、県大会出場を果たしました。体育大会では応援合戦の副団長を務め、約100名の仲間をリードしました。

私たちの住む蒲郡には、市民憲章というすばらしい文言があります。私は、中学生バージョンを考えてみました。

<蒲郡市民憲章三つの誓い>

はい、ありがとう、すみません、愛の言葉で仲間づくり

心と体をすこやかに、笑顔で活動し、学校づくり

海と空を美しく、中学生の力でも、街づくり

どうでしょうか。この中でも特に私が進めたいことは、街づくりです。

「楓、外国では、自己紹介をするとき、こういうボランティアをしている誰々です。というらしいよ。ボランティア活動をしていることがその人のステイタスになるんだね。」

と聞いたことがあります。私たちがする自己

紹介とは違うなと思いました。そのとき、ボランティアに興味をもちました。

私は形原中学校の生徒会行事、桜会ボランティアに参加したことがあります。これは、春日山の清掃活動をするものです。友達に誘われ、少しでもきれいになればいいな、という気持ちで参加したのですが、きれいになったとき、うれしさを感じました。活動を通してたくさんの人と協力する大切さが分かりました。参加してよかった、ボランティア活動をやってよかったと思いました。

そして、まわりを見回すと、ボランティアに関する新聞記事やテレビのニュースもあふれていることに気がつきはじめました。東日本大震災の災害現場での食料供給や、花を植えるボランティアなどです。その姿には、心打たれるものがありました。たくさんの人が困っている人々のために、継続的に言って

いる活動の多さに気がつきました。私にも行えるボランティア活動とは何か、と考えるようになりました。

中学生でもできる街づくり、それは継続的なボランティア活動を推進していくことではないか、と思えるようになりました。たとえば市内7中学校の生徒会執行部が集まり、蒲郡中学生ボランティアサミットを開き、みんなでできることを話し合って実行するのです。そして継続的に進めることを目標とし、参加者を増やして、中学生としての力を示していくのです。中学生にできることは限られているし、1人の力は、さらに小さいものであることは分かっていますが、たくさんの中学生が1つになれば、きっと何か生まれ

るのではないかと、思います。私は、その先頭を歩けるようがんばっていきたくと思っています。

石川楓です。蒲郡でこういうボランティア活動をしています。



胸を張ってこんな自己紹介ができる大人になりたい。そして、みんなの自己紹介の中に継続的なボランティア活動があふれている街蒲郡に住みたい。その街づくりは、中学生である今から始まっている、そう信じて、頑張っていきたいと思っています。

「誰か」が動いてくれる

三谷中学校 3年 山本 航

山本君は、生徒会執行部やテニス部部长、委員会の委員長など、興味を持ったことに進んで挑戦しています。周りへの感謝の気持ちや、地道な努力を大切に、日々成長しています。

僕は小学生の頃、週1回電車に乗って将棋教室に通っていた。ある日、いつも通り将棋教室を終え、帰りの電車に乗った。次の駅に止まった時、車椅子の方がホームにいるのが目に映った。助けを借りないと乗ることができないようだった。その時僕は

「疲れているし、誰かが気づいてくれる。」
そう思っていた。しかし、誰も助けに行かなかった。すると、運転手さんが自らホームに降り、その車椅子の方を乗せてあげていた。その姿を見ながら、僕は

「次やればいいか」
と軽く考えていた。その人は僕が降りる手前の駅で降りようとしていた。しかし、僕は動けなかった。電車を降りた時、

「ありがとうございました。」

と運転手さんが笑顔で言ってくれた。その言葉を聞いて、はっとした。僕は本当に情けなかった。なぜあの時動けなかったのか。なぜ見て見ぬふりをしてしまったのか。そんな自分がとても恥ずかしくて、人目を避けるようにして家に帰った。この出来事が自分の心に深く突き刺さった。

中学1年生になって、僕は事故に遭った。いきなりトラックの扉が開き、自転車に乗っていた僕は転倒してしまった。激痛で立ち上がれなかった時、僕の傍を何人かの人が通り過ぎた。警察の方が気づいて助けてくれたが、僕は通り過ぎた人に非常に腹が立った。と同時に、僕が助けられなかった車椅子の方も、

同じことを思っていたかもしれないと感じた。「誰かが動いてくれる」その「誰か」は自分なんだと、その時確信した。

そして、やっとその「誰か」の一人になれた瞬間が訪れた。駅のホームにいたおじいさんに手を差し伸べることができた。

「大丈夫ですか。ゆっくりでいいですよ。」
と思い切って声をかけてみた。

「ありがとな、助かった。」
そう言ってくれた。少しの勇気で自分から動いた。あれからもう、4年の月日が流れていた。やっと自分にとっての大きな大きな壁を乗り越え、自分の一步を踏み出すことができた。

「助け合い」とか「一人はみんなのために」

など、簡単に文字で表したり、口で言えたりはする。でも、実際に行動に移すことは、なかなかできない。

お客さんを大事にしていた運転手さん。事故に気付いて、すぐに駆けつけてくれた警察の方。僕の周りには、地域を支えてくれる方がたくさんいる。いろいろな人の力でこの社会は成り立っているのだ。今起きているいじめや差別問題。どんなことも一人が動けば、みんなが動いてくれると僕は信じている。その「一人」に自分になりたい。そう強く感じた。この気持ちを忘れずに、社会の一員として地域をよりよくしていきたい。



魔法の言葉

蒲郡中学校 3年 小田文恵

小田さんは、学校内で一番さわやかなあいさつや笑顔を中心にしています。誰よりも仲間を大事にして行動し、前期生徒会執行部として、仲間のために力を尽くしました。ソフトボール部でも中心となって活躍し、市内大会優勝に大きく貢献しました。

私が通っている蒲郡中学校では、「おはようございます。」「こんにちは。」「さようなら。」と、さわやかで、元気なあいさつが飛びかっています。

いまでは、こんなすばらしいあいさつが毎日飛びかっていますが、去年までは、あいさつはできても、さわやかにするとか、元気よくするとかいうところまではあまりできてはいませんでした。

私は今年、前期生徒会会計をやりました。生徒会役員をやったのは2回目で、前回は2年生の前期にやりました。

私が2年生になった頃は、あいさつが全体

的に少なく、学校の雰囲気も暗い感じがしていました。

そんなときに、一緒に生徒会役員をやっていた3年生の先輩たちが蒲中を変えようと、様々なことを企画して、実行して、成功させてどんどん蒲中を明るく、良い学校へと変えていきました。

そんな姿を、2年生の生徒会役員3人で間近に見ていて、「私たちも先輩たちにつづくために、何かできないかな。」と思うようになり「スマイルあいさつ大作戦」を企画し、実行しました。

やる前までは、あいさつをする人が少な

ったけど、どんどんあいさつをする人が増えて、ただあいさつするだけでなく、笑顔であいさつする人も出てきました。

学校の雰囲気がどんどん明るくなっていくのを感じ、これを企画して良かったと思いました。

私たちが始めた企画を、今年は自治委員会が引き継いであいさつ運動をしてくれて、さらに蒲中の雰囲気が良くなってきたのを実感しています。

今、振り返ってみると、去年私たち3人が目指した、笑顔があふれる楽しい学校生活は、あいさつによって現実になってきました。

あいさつは、人の心を和やかにし、初めて

会った人との距離も縮めてくれる「魔法の言葉」です。これからは学校の中だけでなく、地域の人たちのあいさつの輪に私たちも進んで加わっていけたらいいと思います。

町で地域の人からあいさつされたときに、恥ずかしかったり、びっくりしたりすることがあるかもしれませんが、そんな時は笑顔で明るくあいさつできるといいと思います。

あいさつを通して、地域の人と一緒に明るく安心できる町づくりをしていきたいです。



地域の人ときれいな川を

塩津中学校 3年 村松美紅

村松さんは、明るく元気な人柄で、友だちからとても頼りにされています。ソフトボール部の部長として、大きな声で部員をリードしました。後期生徒会副会長として、文化祭作りに取り組んでいます。

蛍はきれいな川に住むといわれます。小さな黄緑色の光が暗い中でぼっ、ぼっと輝くのは言葉にできないほど美しいものです。

私の家の近くの川では2、3年前から蛍が増え始めました。近所だからと散歩がてら蛍を見に来る人も多く、最近は小学生も学習として学年全体で見に行っているようです。私も、時間がある時は歩いて見に行くこともありました。蛍が増え始めたのは本当に最近のことです。なぜ増えたのでしょうか……。

それは地域の人々の自然を守りたいという気持ちからスタートしました。川の草を刈り、ゴミを片付け、蛍が住みやすい川を少しずつ作ってくれたからです。

私が中学1年生の頃、地域のふれあい活動

で蛍についての話を聞いたことがありました。正直に言ってその頃は、あまり興味がなく、蛍なんて……とっていました。だから、地域の人々がどんな話をしてくださったのかもあまり思い出せません。ただ1つ、「蛍を守ろう」という看板を作ったことだけ覚えています。今は、地域の人はその時から蛍のために動いてくれていたんだと知り、申し訳なく思っています。

ふれあい活動を終えた後、母に誘われ、蛍を見に行くことが増えました。すると、川沿いにあるガードレールに、私たちが描いた看板が取り付けられていました。まさか、こんな所に付けられるとは知らなかったから驚きました。でも、地域のためになっている気

がしてちょっぴり嬉しかったです。

私の祖父は蛍を守ろう会の一員です。看板を取り付けたのも祖父だったようです。蛍のこともよく知っているなので、また聞いてみるのもいいかなと思います。

最近、妹から小学校の6年生全員で川の掃除をしたと聞きました。最近、そのような小学生の活動が町全体に広がってきているように感じます。

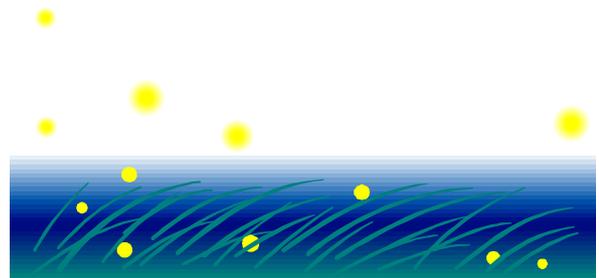
先日、中学校に小学生からあるポスターが配られました。それには、蛍の現状や蛍を守ろうという呼びかけが書かれていました。中学生にも考えてほしいという気持ちで書いたものだと思います。

小学生は中学校だけでなく、町の保育園や

老人ホームにも実際に行って呼びかけをしているようです。

そのおかげか、今年は蛍をより多くの場所で見ることができました。蛍を見られる場所が増えているということは、きれいな川が増えているということでしょう。

「自分の住む町は、自分たちでつくる」
今広がりつつあるこの活動を大切にしていきたいと思います。私が、これからできること、それはまず身近な蛍をもっと深く知り、見守ることだと思います。



人と人をつなげる言葉

中部中学校 3年 村上 梨紗

梨紗さんは、何事にも丁寧に取り組んでいます。特に部活動では、弓道部の中心選手として、率先して毎日の練習に励み、全国大会出場を果たしました。現在英語スピーチコンテストの学校代表として練習に励んでいます。

ここ蒲郡市には、みなさんが知っているとおり、市民憲章があります。

私は、この3つの誓いには、人と人をつなげる大切な言葉があると思います。

それは最初の1つめ。「はい、ありがとう、すみません」の一文です。この3つの言葉は授業中、手伝ってもらったり、まちがえてしまったときなどいろんな時、場合で使われています。言われたほうは、とてもうれしくなったり、いい気持ちになることができます。

私は、日常生活で市民憲章にある「ありがとう」という言葉をいろいろと手伝ってもらったり、うれしいことをしてもらったりしたときなどに言うことを心がけています。回覧

板を隣の家に置きに行ったら、その家のおばあさんに「ありがとう。」と言われたり、片づけをしていて、手伝ってもらったら、「ありがとう」と言ったり・・・。「ありがとう」という言葉は、言われたときもうれしいですが、言うときもうれしくなります。

ちなみに“どんな言葉を言われたらうれしいですか”と聞くとだいたいの人が「ありがとう。」と答えるそうです。

蒲郡市民憲章は、「はい、ありがとう、すみません 愛の言葉で人づくり。心と体をすこやかに 笑顔で働き家づくり。海と空を美しく みんなの力で町づくり。」という3つの誓いで大切なことをたくさん書いてあっ

て、とてもいい憲章だと思います。私は、1つのストーリーみたいだなと思います。人と人が関わり合って、愛が生まれ結婚をして子供をつくり、家族で働いて家を作って、海と空が美しい町をみんなで作っていく……。1つの人生を描いているように感じるので、こんな風にうまくいくことはめったにありませんが、あったらきっといいなと思います。みんなと町を作るとは、人と人が支え合い、助け合って、力を合わせなければ、できないことです。きっとみんなで力を合わせて作った町は、完成したとき、いい町になっていると思います。

原発と安全な社会

市民憲章が制定されて今年で40周年です。今までたくさんの人々がいたから、今の蒲郡があります。蒲郡は、空気、水、山がキレイでのんびりしています。私はそんな蒲郡が好きです。これからもキレイな蒲郡であるように心がけていきたいです。

この蒲郡市が、私たちが大人になったとき、明るくキレイな町になってくれるといいです。



蒲郡東高等学校 2年 鵜飼裕康

鵜飼君は西浦中学校出身の現在2年生。バレーボール部で活躍するスポーツマンです。前期は生徒会の副会長、クラスの室長を責任感をもって務め、学校行事を成功に導きました。明るくエネルギッシュであり、そしてユーモアを兼ね備えた頼りになる人物とのことです。

私は最近になり原子力についての関心を持つようになってきた。関心を持ったきっかけは2つある。その1つに福島第一原発事故がある。この事故によって原子力についてのメリット、デメリットを私は知った。もう1つは、修学旅行で戦争の体験談を直接聞いたことである。その2つの点から自分なりの考えを述べていきたい。

まずは福島第一原発事故についてだ。事故の原因は自然災害だと考えられている。しかし、この事故は人災であるとも言われている。原因は地震による津波の浸水といわれている。ではなぜ人災と呼ばれるのか。

事故調査委員会の報告書によれば「規制する立場と規制される立場が逆転し、原子力安全についての監視機能の崩壊が起きた。」と

書かれている。すなわち、事故当時指示すべき東京電力は官邸の顔色を伺い、本来指示すべきでない首相が指示するという逆転が起き事態はより混乱してしまうに至った。これが人災と呼ばれる所以である。

原子力という発電方法は多くの電力を生むことができる。おそらく原発が撤廃されることがあるなら、電力は不足する可能性があるだろう。国内では節電の呼びかけが続いている。圧倒的な発電力こそが原子力発電がもたらすメリットであると思う。

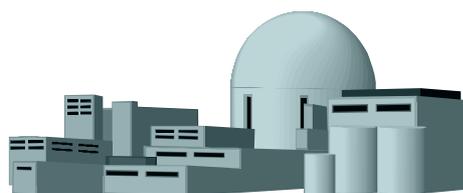
しかし、原発事故によって大量の放射線が漏れ出した。それによって避難を余儀なくされる人が多くいる。さらに事故により被曝の可能性のある人は多くいる。これが、原子力発電がもたらすデメリットであると思う。

次に原爆という視点から考える。原爆は原子核の核分裂反応を利用して爆発を引き起こす核爆弾である。この原爆によって被害を受けた広島では、一瞬にして数万人以上の人が亡くなり、被曝が原因の障害で亡くなる人の数はその後も増え累計 14 万人前後と推定された。この過去から学ぶことは多くあると思う。

ここで原発と原爆の違いを調べた。この2つには大きな違いがあった。それは利用方法にある。原発は人々のために発電をする物。原爆は人々を大量に殺戮する物。ここに私は大きな違いを感じた。

私は、原発は撤廃するべきだと思う。確か

に原発は多くの発電量を担っている。しかし、事故が起きたときのデメリットの方が大きく感じる。便利なものほどたくさんの危険を背負っていると思う。それに、原発、原爆の違いは利用方法を除き目立つ違いはなかった。つまり、原発と原爆は紙一重であることがわかる。これは恐ろしいことだと思う。だから原発はない方が良いのだ。



澄んだデザインの可能性

蒲郡高等学校 3年 鈴木 美香

鈴木さんは、常に礼儀正しく、明るくハキハキと行動できます。細かいところまで気遣いができ、何事にも積極的に自ら課題を見つけて努力することができます。現在は美術部の部長ですが、昨年は2年生ながら、平成23年度アートフェスタ愛知県高等学校総合文化祭で、生徒実行委員長を務めるなど、リーダーシップと実行力を兼ね備えた好人物とのことです。

私たちの身の回りには、生活がより快適になるような、人が人を支えるためのデザインが多くあります。缶ジュースのプルトップや振るだけで芯が出てくるシャープペンシルなど小さいものから、段差があると生活しづらい人のために設置されたスロープ等、公共の場にも多く浸透しています。

例えば、どこの建物にもある非常口サインも、太田幸夫さんによって考案された命を守るデザインの一つです。

太田幸夫さんはトイレの男女サインや速度制限など、数え切れないほどのサインを絵文字で分かりやすくした日本を代表する絵

文字デザイナーです。

先日、刈谷市美術館で絵文字デザイン展があり、そこで、太田さんの講演をうかがいました。

絵文字のサインを考案したのは、若い時、イタリアの留学先でパン1つ買うのにさえ苦労したコミュニケーションの壁がきっかけだったそうです。

世界には3000から4000の言語が存在します。話す言葉も文化も違う場所で、人とつながりあう手段が必要です。そこで太田さんは絵文字でならば国を越えて理解できると考え、日本サイン学会を立ち上げました。

太田さんは講演の途中、私たちに問いかけをしました。「身近な絵文字サインが消えてしまうとは、どういうことでしょうか。」

私は質問の意図がつかめませんでした。太田さんはこう続けました。「空気が無くなるのと同じようなことなのです。」と。

絵文字は今や産業を支える柱となっています。呼吸をするのと同じで、生活の中に無意識のうちに組み込まれていきました。私たちは絵文字という透明に澄んだデザインを自然に受け入れ、支えられていたのです。

私も太田さんのように、人を支えるデザインを勉強したいと思っています。

社会で人の役に立つには様々な手段があります。ゴミ拾いやあいさつ運動など、人と人との触れ合いを通してお互いに幸せを育むことができます。以前までは私もそれで満足でしたが、色弱の人に出会い、考えが変わりました。色弱とは、視覚異常と言われるいくつかの色が認識できない先天性の視覚障がいのことです。自分とは見ている風景が違うことを知り、ショックを受けました。

世間には障がいや年齢差、文化の違いなどで壁が生じ、生活に支障をきたしている人が

います。そのような人々のためにもっと根本的に日常の手助けをしたいと思います。

私は高校の3年間で、部活動や行事を通して、物事に対する意見の持ち方と、すぐには諦めない粘り強さを培ってきました。

創立100周年を迎える蒲郡高校の取り組みの1つとして、美術部ではプログラマーさんと協力した「動く未来の絵本」の電子絵本作りをしています。グループでの製作を取りまとめる難しさとの向き合い、モノづくりには言い訳なしで行動し続ける根性と人とのつながりを意識することの大切さに気が付きました。これを生かしてデザインやモノづくりを通して社会のために貢献できる人になりたいです。

デザインには社会をより良く変える力があると信じています。



アルバイトで学んだこと

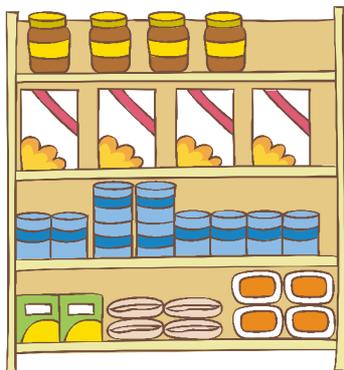
三谷水産高等学校 3年 水藤章夫

水藤君は、たゆまず努力する姿勢と誠実な人柄で仲間からの信頼も厚く、カッター部の主将として、チームを引っ張ってきました。現在水産系大学への進学を目指し、日々学習に励んでいます。

私は、将来のためにお金を少しでも貯めておこうと思い、高校1年生のときから食品スーパーでアルバイトをしています。今からは、初めてのアルバイトの経験を通して学んだことを発表します。

私はアルバイトを始めた当初、正社員にも負けなくらい仕事をして、使えるアルバイトだと思われるよう仕事に励みました。そのため所属していた部の主任の第一印象も最高に良く、すごい子が入ってきたといううわ

さが店中に広まりました。私は気を良くして、一つ一つ何をすればいいか聞きながら、仕事をこなしていきました。ところがあるとき、



いつものように何をしたらいいか聞くと「いちいち聞かないで自分で考えてやって。」ときつく言われました。

さらにある日、開店準備を進めていると、「なんでそんなこと先にやってるの、優先順位を考えてやってよ。分からないなら何で聞かないの。」と叱られ、主任に対して矛盾を感じ、強い不信感を持つようになりました。その頃私は学校でサッカー部に所属し、平日は毎日部活動、休日はアルバイトという休みなしの日々を送っていました。そのため、精神的にもかなり追い詰められ、自分だけがなぜこんなに緊張して、周りに気を遣いながら自分の身を削っているのだろうと思うようになりました。次第に仕事に対する熱意は薄れ、仕事のスピードも格段に落ち、周りの従業員に笑顔を見せることもなくなりました。そんなことが続いたある日、あまりにも仕事のスピードが遅いと主任から怒られ、そのとき私の事を理解してくれない主任に対して、不信感が一層強まりました。それから数週間して、今度は店長に声をかけられました。店長には、

「最近あなたについていい評判を聞かないけど、何かあったのか。」と聞かれました。私は、主任に対する不信感を話し、どうしたらいいかわからないと答えました。その後、店長、主任、私の3人で話をしましたが、私のもやもやした思いは晴れず、このまま続けても前と何も変わらないと考え、自分に気持ちの区切りをつけるため、店長に「アルバイトを辞めます。」と言いました。そのとき私は「自分が情けないなあ」と思うとともに、ここで終わったら迷惑かけただけで居心地が悪くなったから辞めるというどうしようもない人間になってしまうと思い、とても恥ずかしくなりました。そこで、もう一度チャンスをもらえるようお願いしました。店長はすぐに主任を呼んで話をし、2人は私の気持ちを理解してくれました。私は、自分に社会人としての心構えがなく、迷惑をかけてしまったのに、私の成長のことを一番に考えてくださったことに感謝しました。

最近ではだいぶ仕事に慣れてきましたが、もしあの時辞めていたら、私は自分勝手な考え方しかできなかったと思います。お金をもらっているんだから、一人一人が責任を持って役割を果たす。そして皆で協力し合う。それが社会に出て生きていくことだと学んだ気がします。

